

10月の野菜の見通し

令和2年9月30日現在
山形県東京事務所

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	平年比 見込	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量※ (t)	前年 占有率 (%)	
だいこん	11,155	平年並 み	12,539	81	105%	98	24	0.2%	北海道産は9月の天候が良く出荷は前倒し傾向。青森県産は品質不良が散見され、切り上がりが見込み。千葉県産の出荷開始が早めのため、大きな端境期はないが、下旬になれば気温が下がって需要が高まるため、引き合いが強くなる。全体量はやや少なかった前年並み。単価は平年よりやや安い。
はくさい	17,523	やや多 い	16,004	57	105%	96	2	0.0%	長野県産はレタスの収穫が終わり、10月から作業が移行するため増量。後続産地の茨城県産は生育順調。全体量は多く単価は平年を下回る水準。
キャベツ	17,568	やや多 い	17,508	74	95%	104	0	0.0%	群馬県産は干ばつにより小玉だが、肥大は進んできている。出荷はピークを越し減少に向かう。後続の茨城県産は干ばつで生育に影響があるが、概ね順調。全体量は充分で、単価は安かった前年並みで平年比大幅安。
ほうれんそう	1,284	平年並 み	1,331	571	102%	616	4	0.3%	群馬県産、茨城県産中心の入荷。10月に気温が下がると数量が増加、相場は下がる。全体量は前年・平年並み。単価は平年並み。
ねぎ	5,230	平年並 み	5,409	329	91%	347	476	9.1%	北海道、東北では上旬まで稲刈り作業で出荷量が減っているが、中旬以降は通常に戻る。9月に降雨が続く、出荷が進まなかったため残量は多い。全体量は前年より微増で平年並み。単価は平年より1割安い。

10月の野菜の見通し

令和2年9月30日現在
山形県東京事務所

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	平年比 見込	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量※ (t)	前年 占有率 (%)	
きゅうり	6,119	平年並 み	5,850	311	113%	362	105	1.7%	関東産が出荷最盛期となり、上旬の相場は下がる。中旬以降は落ち着き、東北産が終了することから、引き合いが強まる。 全体量はやや多かった前年より微増で平年並み。価格は前年より1割高いが平年並み。
なす	2,945	平年並 み	2,865	330	123%	350	7	0.2%	関東産は高温・干ばつの影響から品質低下が見られる。数量は前年より微減だが平年並み。 後継産地の高知県産は生育順調。 価格は前年・平年を下回る。
トマト	5,963	平年並 み	5,998	453	88%	467	90	1.5%	千葉県産は前年の台風被害の影響が残っているが、出荷量は前年以上。 熊本県産は豪雨・台風の被害があったが、大勢に影響はない。 北海道・東北産は10月上旬にはピークが過ぎて減少するため高値の気配。それ以降は後続産地の熊本県産が増量。 全体量は前年よりやや増加、単価は前年・平年より1割安い。

引用資料:「東京都中央卸売市場における野菜の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、「野菜の生育状況及び価格見通し」(農林水産省)、「野菜の入荷・市況見通しについて」(東京青果株)

入荷量について:平年並とは、平年との比率が80%以上、120%未満であることを示す。「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)